

### 3 事業統合後の新組織運営の課題と活性化のための方策

平成 27 年 3 月

労働者健康福祉機構  
千葉産業保健総合支援センター

## 目 次

研究員名簿	2
はじめに	3
対象及び方法	4
結 果	5
考 察	19
質問紙	23

## 研 究 員 名 簿

### 研究代表者

千葉産業保健総合支援センター 所 長 能 川 浩 二

### 研究分担者

千葉産業保健総合支援センター 産 業 保 健 相 談 員 諏訪園 靖

### 共同研究者

公益社団法人千葉県医師会 産 業 保 健 担 当 理 事 深 沢 規 夫

公益社団法人千葉県医師会 産 業 保 健 副 担 当 理 事 松 岡 かおり

千葉大学大学院環境労働衛生学 助 教 能 川 和 浩

## はじめに

平成26年4月より、従来の3つの産業保健事業（産業保健推進センター事業、メンタル対策支援事業及び地域産業保健事業）を一元化し、「産業保健活動総合支援事業」として事業場の産業保健活動を総合的に支援することになり、独立行政法人労働者健康福祉機構（以下機構）が事業の実施主体となり、地域の医師会等の協力を得ながら事業を実施するように、大きな変更がなされた。地域産業保健事業については千葉県では千葉県医師会が厚生労働省からの委託を受け県下の23地区医師会が9の地域産業保健センターに分かれて相談等の事業を実施してきている。地域産業保健事業は地区医師会にとっては、従来は千葉県医師会の事業であることから事業への参加、協力は当然との意識があり、種々の課題を抱えながらも事業の実施はなされてきた。

今回は、地域産業保健事業は機構の事業とされたことから、地区医師会としてはどのように関与すべきかについて、新たな支援事業の開始される26年2-3月時点では大きな混乱が見られている。新たな支援事業を成功するためには実務を担うとされる地区医師会と地区医師会員である登録産業医が積極的に事業に参加をすることが極めて重要な要因である。

本調査の目的は機構が担う新たな事業を成功させるために、医師会から推薦されてこの事業に参加の意思を示し、機構から「登録産業医」としての辞令を交付されている地区医師会員を対象に質問紙による調査を行い、実状を知り、地域産業保健事業活動の成功のために解決すべき課題を明らかにし、今後の千葉県産業保健総合支援センターの活動の方向を示すことである。

## 対 象 及 び 方 法

### 対象

千葉県下9地域産業保健センター（地域窓口）で登録されている全ての医師を対象とした。これらの医師には機構からの辞令が交付されている。

### 調査内容

質問紙による調査を実施した。調査内容は登録産業医の産業医としての活動状況、従来の地域産業保健センターへの関わり、新しい事業に対する知識・参加の意志、今後の活動意欲を高めるために求める事などである。

### 調査方法

対象者に対して、郵送で質問紙を送付し、約1ヶ月を期限に回収をした。調査実施期間は27年1月である。

## 結 果

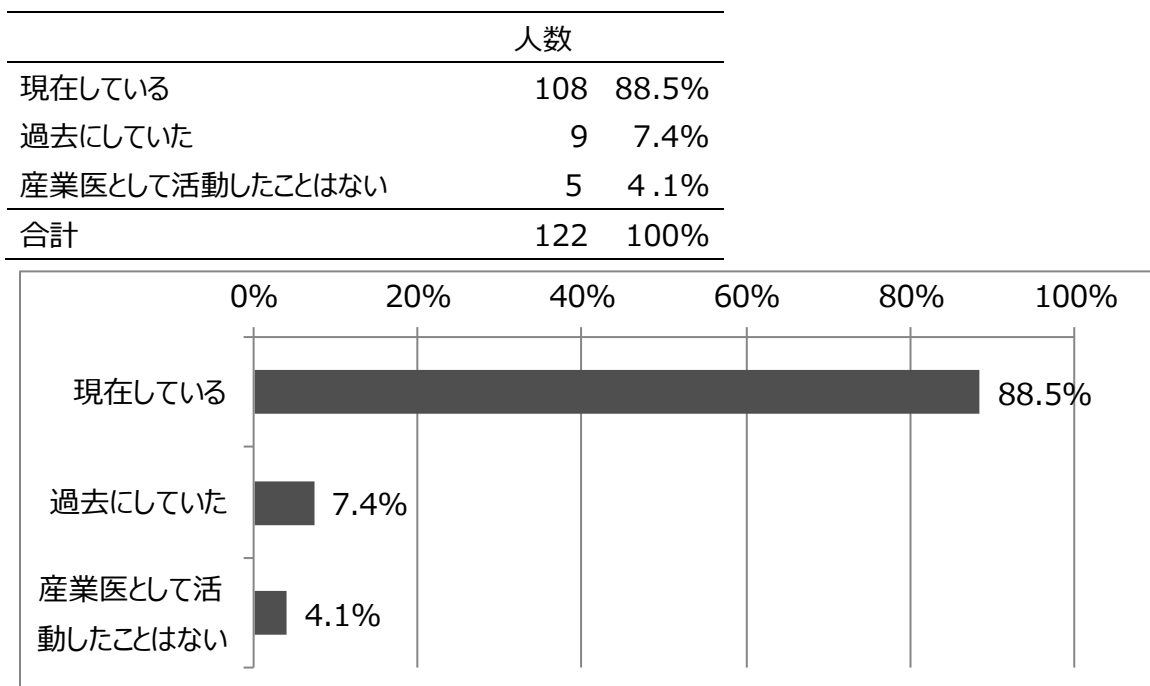
本調査の調査対象者は9地域産業保健センターの登録産業医全員であるが、1地域産業保健センターでは辞令交付がなされていないために8地域産業保健センターの186名である。そのうち、122名から、質問紙が返送され、結果として回収率は65.6%であった。質問紙は、本報告書に添付してある。

複数回答可とした設問については、選択肢ごとに分母を設問の回答者として、選択肢に○を付けた人数の割合を算出した。その為、これらの質問項目の選択肢のパーセントの合計は、100%を超えてしまう場合もある。その他の設問については、択一式として、分母をいずれかの選択肢に回答したものとして、回答の割合を算出した。

図表1に産業医としての活動状況の結果を示す。

「現在している」との回答が最も多く、「過去にしていた」が続き、「産業医として活動したことはない」の順であった。

表1 産業医としての活動状況

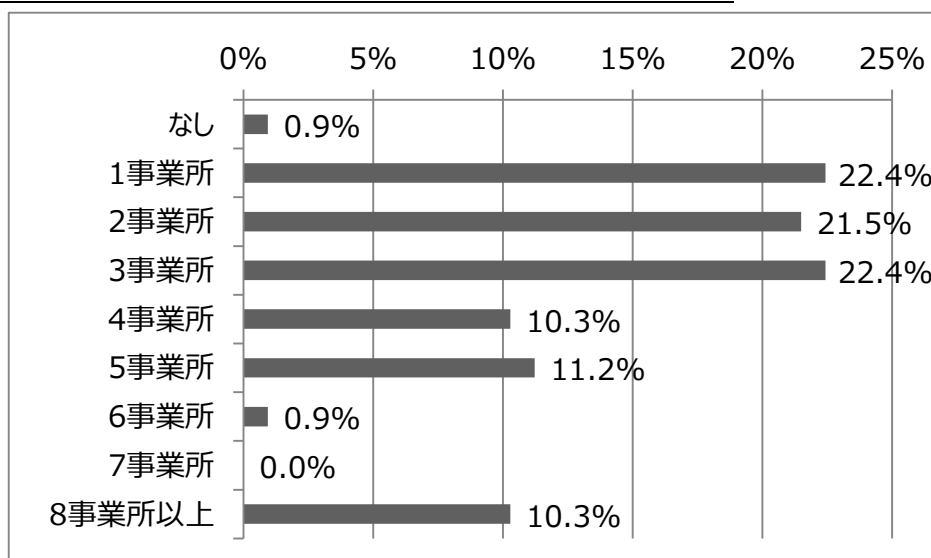


図表 2 に産業医として活動している事業所数の結果を示す。

「1 事業所」「2 事業所」「3 事業所」との回答が 21 - 22%、「5 事業所」、「4 事業所」「8 事業所」が 10 - 11%であった。

図表 2 産業医として活動している事業所数

	人数	
なし	1	0.9%
1 事業所	24	22.4%
2 事業所	23	21.5%
3 事業所	24	22.4%
4 事業所	11	10.3%
5 事業所	12	11.2%
6 事業所	1	0.9%
7 事業所	0	0.0%
8 事業所以上	11	10.3%
合計	107	100%

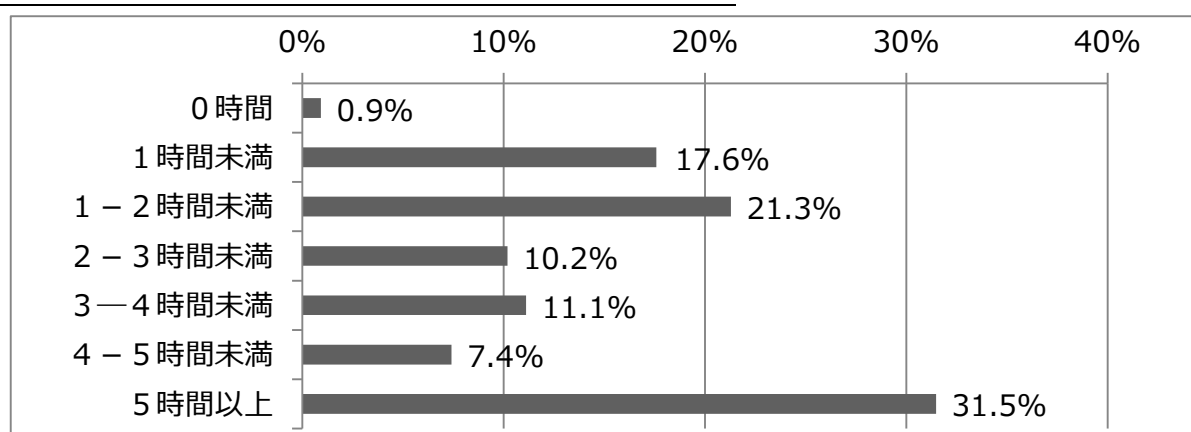


図表 3 に月当たりの産業医活動時間の結果を示す。

「5時間以上」との回答が最も多く、「1-2時間未満」が続き、「1時間未満」、「3-4時間未満」、「2-3時間未満」、「4-5時間未満」、「0時間」の順であった。

図表 3 月当たりの産業医活動時間

	人数	
0時間	1	0.9%
1時間未満	19	17.6%
1-2時間未満	23	21.3%
2-3時間未満	11	10.2%
3-4時間未満	12	11.1%
4-5時間未満	8	7.4%
5時間以上	34	31.5%
合計	108	100%

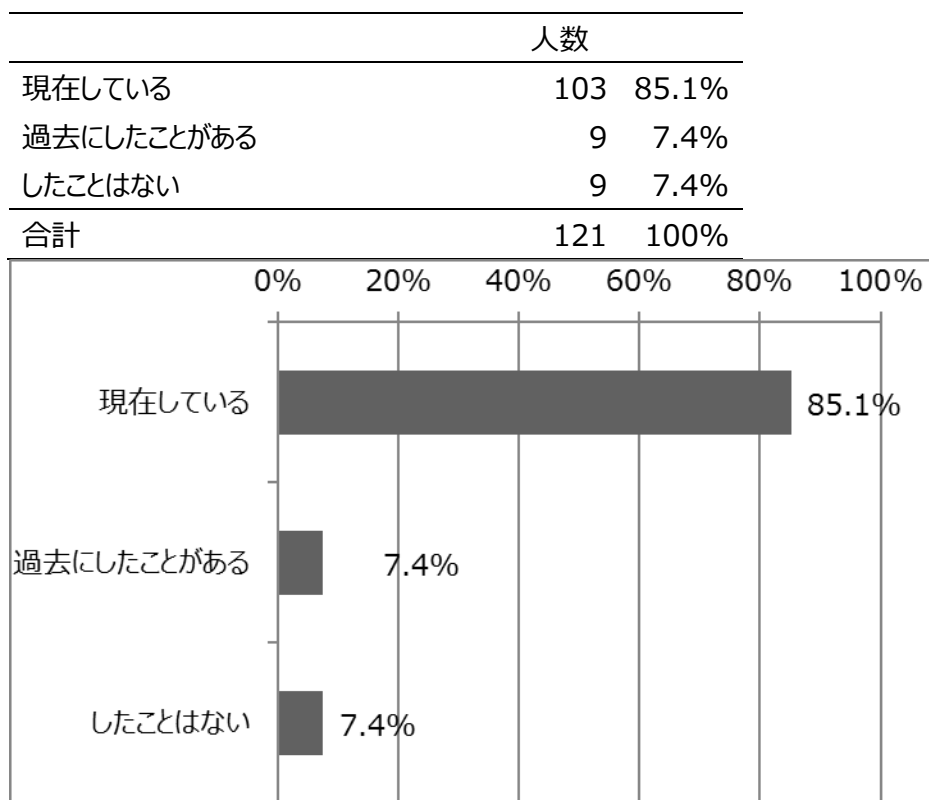


図表 4 に地域産業保健センターでの健診結果の説明等の業務の経験についての結果を示す。

「現在している」との回答が最も多く、「過去にしたことがある」「したことはない」は同率であった。



図表 4 地域産業保健センターでの健診結果の説明等の業務の経験について

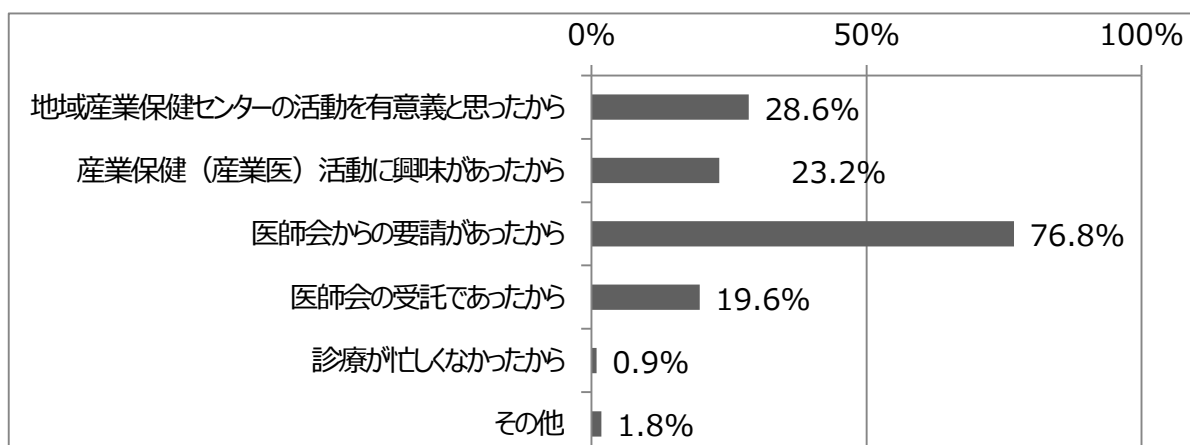


図表 5 に地域産業保健センターの業務に参加した理由（複数回答可）の結果を示す。

「医師会からの要請があったから」との回答が最も多く、「地域産業保健センターの活動を有意義と思ったから」が続き、「産業保健（産業医）活動に興味があったから」、「医師会の受託であったから」、「その他」、「診療が忙しくなかったから」の順であった。その他の理由として、「地産保運営委員」、「前任者からの依頼があったから」との記載があった。

図表 5 地域産業保健センターの業務に参加した理由（複数回答可）

	人数(112人中)	
地域産業保健センターの活動を有意義と思ったから	32	28.6%
産業保健（産業医）活動に興味があったから	26	23.2%
医師会からの要請があったから	86	76.8%
医師会の受託であったから	22	19.6%
診療が忙しくなかったから	1	0.9%
その他	2	1.8%

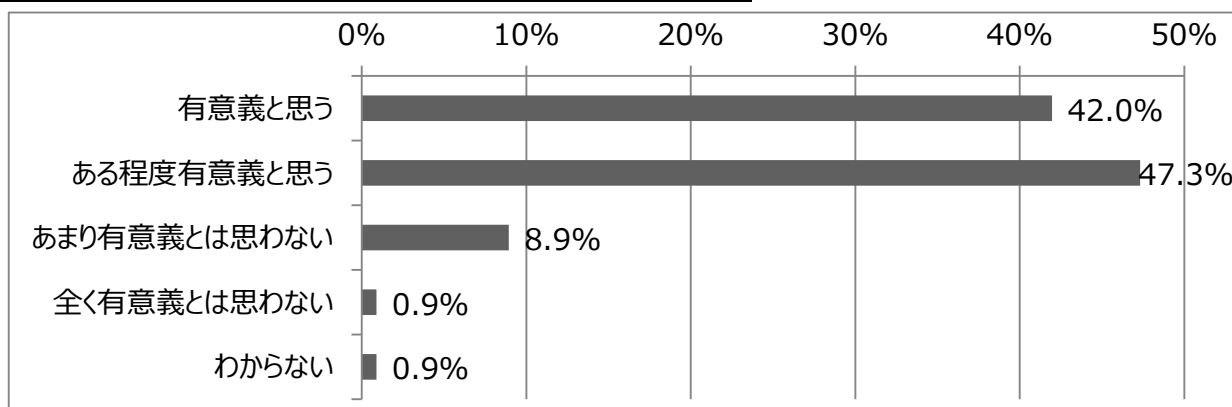


図表 6 に地域産業保健センターの産業医業務の意義の結果を示す。

「ある程度有意義と思う」との回答が最も多く、「有意義と思う」が続き、「あまり有意義とは思わない」、「全く有意義とは思わない」「わからない」の順であった。

図表 6 地域産業保健センターの産業医業務の意義

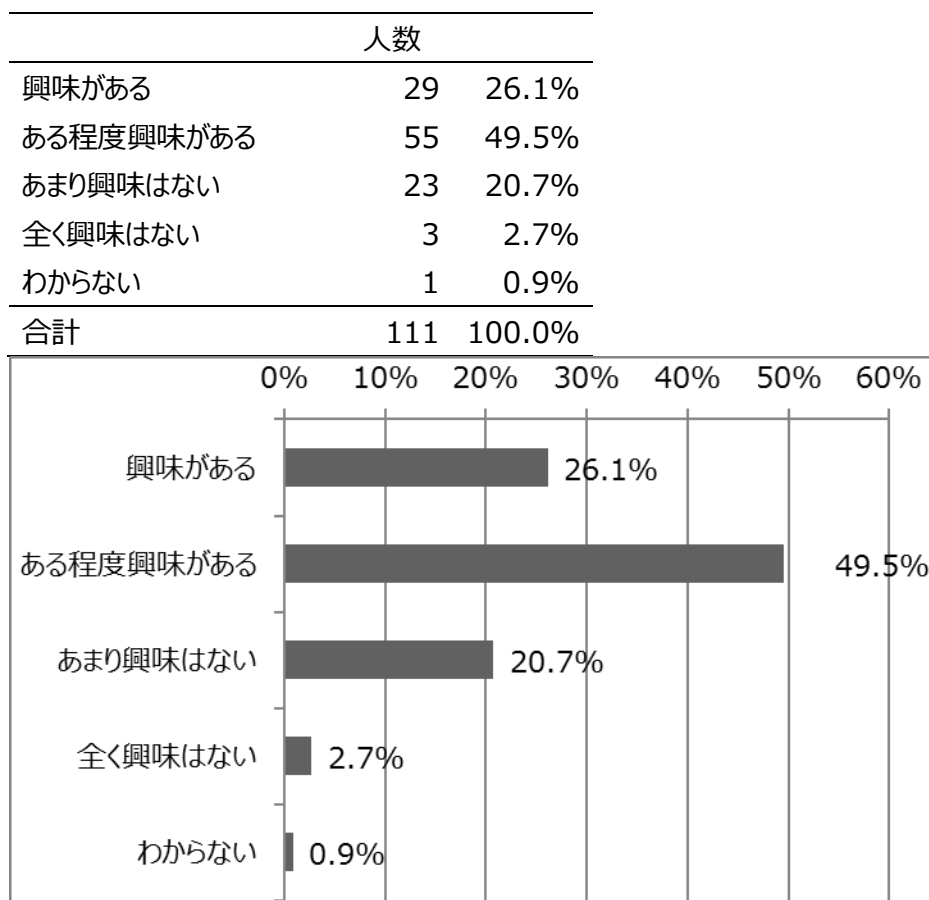
	人数	
有意義と思う	47	42.0%
ある程度有意義と思う	53	47.3%
あまり有意義とは思わない	10	8.9%
全く有意義とは思わない	1	0.9%
わからない	1	0.9%
合計	112	100.0%



図表 7 に地域産業保健センターの産業医業務への興味の結果を示す。

「ある程度興味がある」との回答が最も多く、「興味がある」が続き、「あまり興味はない」、「全く興味はない」、「わからない」の順であった。

図表 7 地域産業保健センターの産業医業務への興味

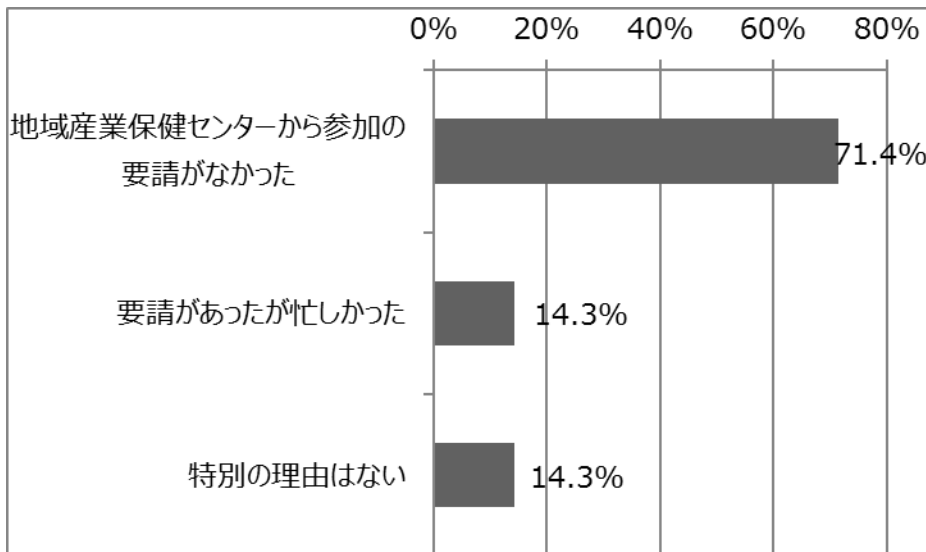


図表 8 に地域産業保健センターの業務に参加しなかった理由の結果を示す。

「地域産業保健センターから参加の要請がなかった」との回答が最も多く、「要請があったが忙しかった」、「特別の理由はない」は同率であった。

図表 8 地域産業保健センターの業務に参加しなかった理由

	人数	
地域産業保健センターから参加の要請がなかった	5	71.4%
要請があったが忙しかった	1	14.3%
特別の理由はない	1	14.3%
合計	7	100.0%

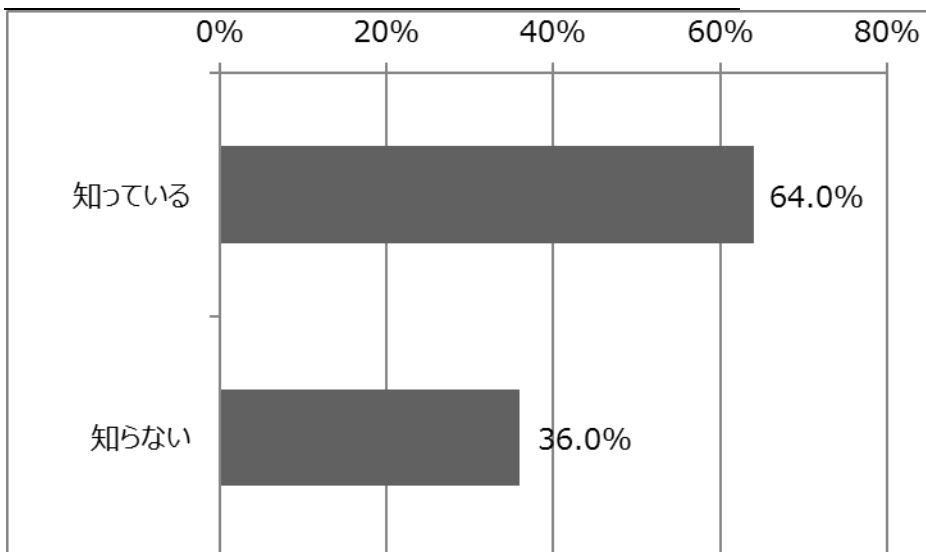


図表 9 に平成 26 年 4 月 1 日より従来の地域産業保健センターは千葉県医師会への委託事業から労働者健康福祉機構に統合（事業一元化）されたことへの認知の結果を示す。

「知っている」との回答のほうが、「知らない」よりも多かった。

図表 9 平成 26 年 4 月 1 日より従来の地域産業保健センターは千葉県医師会への委託事業から労働者健康福祉機構に統合（事業一元化）された点について

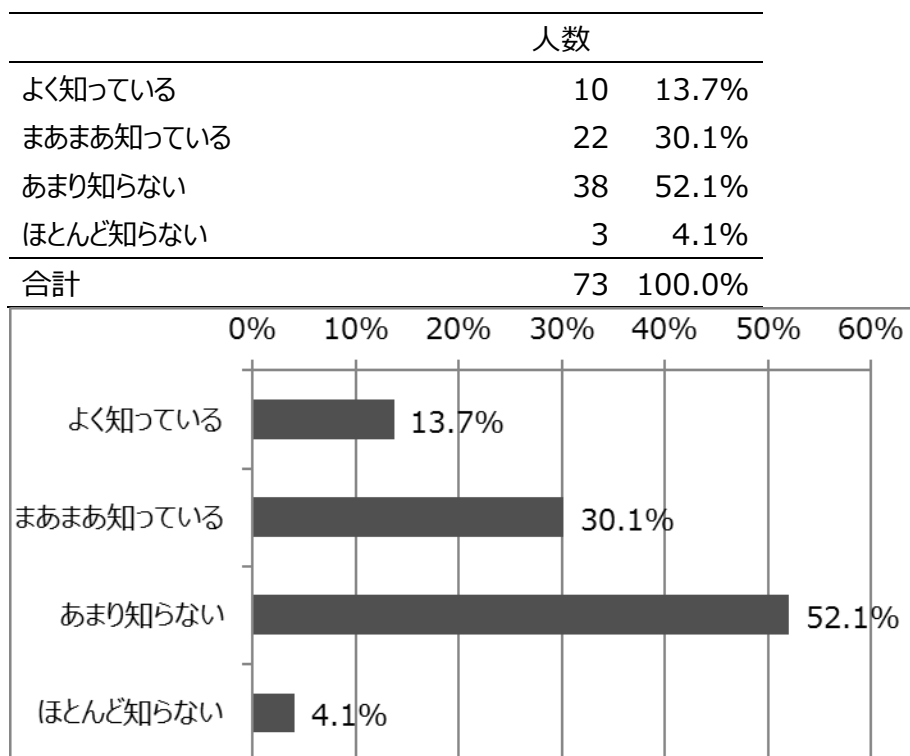
	人数	
知っている	73	64.0%
知らない	41	36.0%
合計	114	100.0%



図表 10 に統合された新組織についての知識の結果を示す。

「あまり知らない」との回答が最も多く、「まあまあ知っている」、「よく知っている」、「ほとんど知らない」が続いていた。

図表 10 統合された新組織についての知識

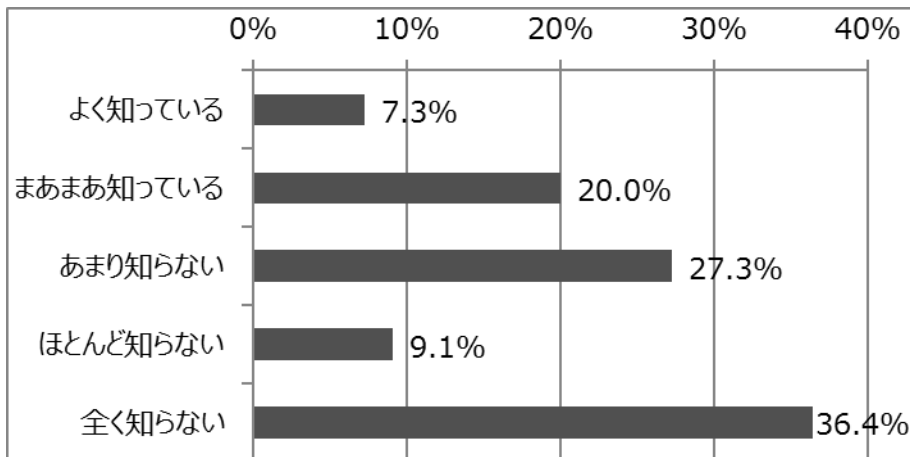


図表 11 に地域産業保健センターが統合された理由についての結果を示す。

「全く知らない」との回答が最も多く、「あまり知らない」が続き、「まあまあ知っている」、「ほとんど知らない」、「よく知っている」が続いていた。

図表 11 地域産業保健センターが統合された理由について

	人数	
よく知っている	8	7.3%
まあまあ知っている	22	20.0%
あまり知らない	30	27.3%
ほとんど知らない	10	9.1%
全く知らない	40	36.4%
合計	110	100.0%

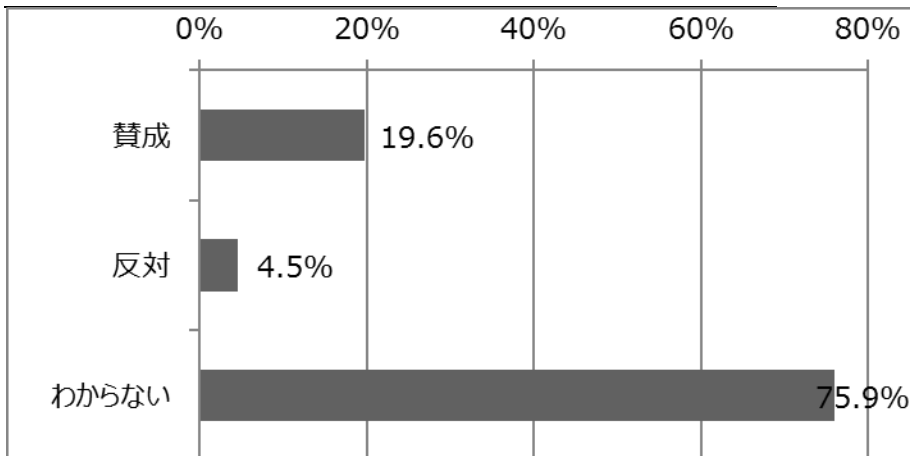


図表 12 に地域産業保健センターの統合についての結果を示す。

「わからない」との回答が最も多く、「賛成」、「反対」が続いていた。

図表 12 地域産業保健センターの統合について

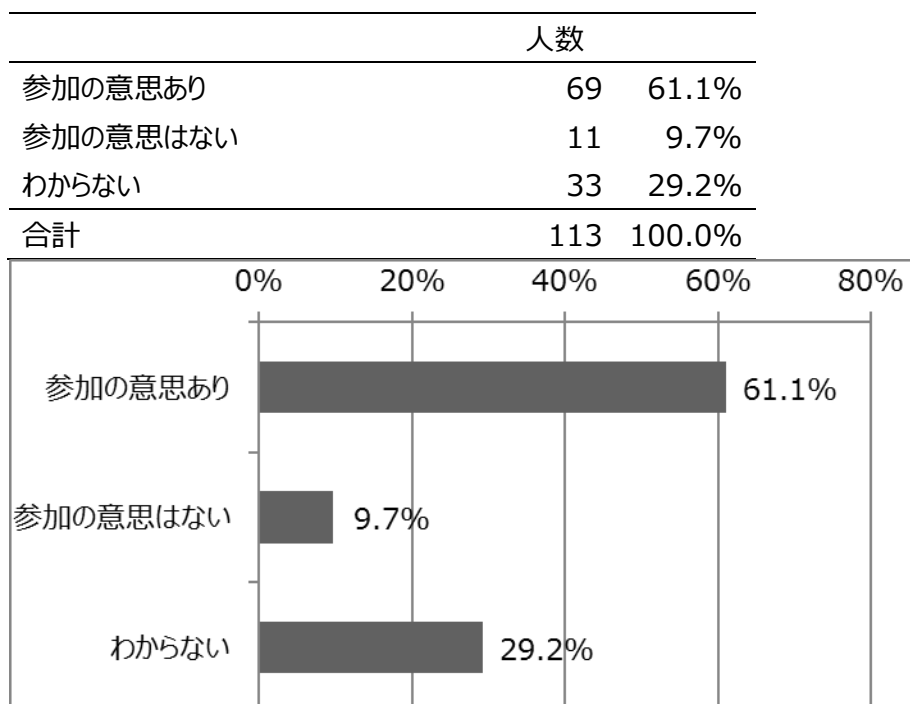
	人数	
賛成	22	19.6%
反対	5	4.5%
わからない	85	75.9%
合計	112	100.0%



図表 13 に地域産業保健センターの事業に産業医として参加される意思の結果を示す。

「参加の意思あり」との回答が最も多く、「わからない」、「参加の意思はない」が続いていた。

図表 13 地域産業保健センターの事業に産業医として参加される意思

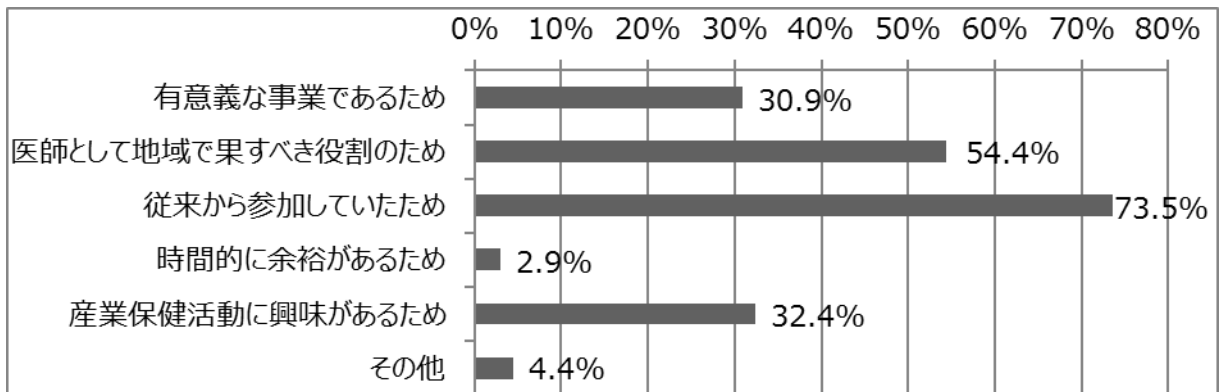


図表 14 に参加の意思がありの理由の結果を示す。

「従来から参加していたため」との回答が最も多く、「医師として地域で果すべき役割のため」が続き、「産業保健活動に興味があるため」、「有意義な事業であるため」、「その他」、「時間的に余裕があるため」の順であった。「その他」の内容は、「産業保健担当理事のため」、「一般診療が忙しいので、十分には参加出来ないと思う。意思だけはある。」、「医師会からの要請」であった。

図表 14 参加の意思がありの理由（複数回答可）

	人数(68人中)	
有意義な事業であるため	21	30.9%
医師として地域で果すべき役割のため	37	54.4%
従来から参加していたため	50	73.5%
時間的に余裕があるため	2	2.9%
産業保健活動に興味があるため	22	32.4%
その他	3	4.4%



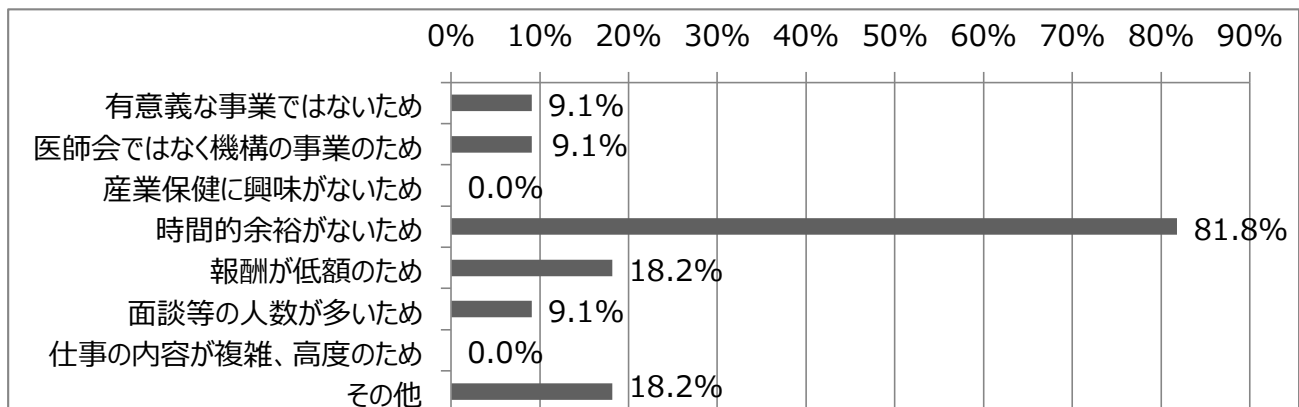
図表 15 に参加の意思がない理由についての結果を示す。

「時間的余裕がないため」との回答が最も多く、「その他」、「報酬が低額のため」が続き、以下の「有意義な事業ではないため」、「面談等の人数が多いため」、「医師会ではなく機構の事業のため」は同率であった。

「産業保健に興味がないため」、「過重労働面、メンタル不調事案等仕事の内容が複雑、高度のため」との回答はなかった。「その他」は、「来年3月で引退するため」であった。

図表 15 参加の意思がない理由について（複数回答可）

理由	人数(11人中)	割合
有意義な事業ではないため	1	9.1%
医師会ではなく機構の事業のため	1	9.1%
産業保健に興味がないため	0	0.0%
時間的余裕がないため	9	81.8%
報酬が低額のため	2	18.2%
面談等の人数が多いため	1	9.1%
過重労働面談、メンタル不調事案等仕事の内容が複雑、高度のため	0	0.0%
その他	2	18.2%

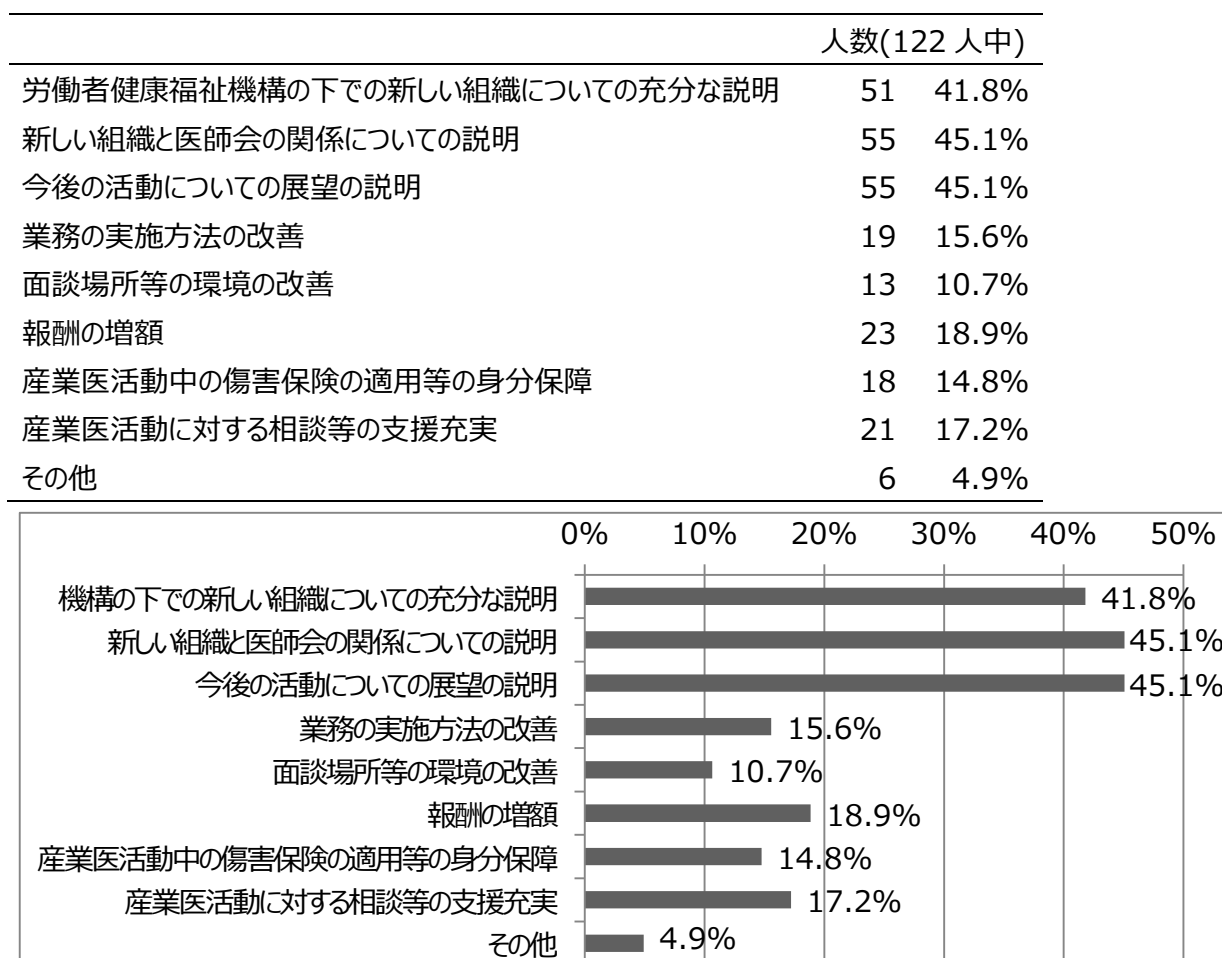




図表 16 に地域産業保健センターの事業に産業医として参加し活動する意思を高めるために改善を望む事項についての結果を示す。

「新しい組織と医師会との関係についての説明」、「今後の活動についての展望の説明」が最も多く、以下「労働者健康福祉機構の下での新しい組織についての十分な説明」、「報酬の増額」、「産業医活動に対する相談等の支援充実」、「業務の実施方法の改善」、「産業医活動中の傷害保険の適用等の身分保障」、「面談場所等の環境の改善」、「その他」の順であった。「その他」の内容は、「役所的ではない方が良い」、「望む事はありません。」、「産業医活動に関する医師賠償責任保険の適用」、「1. 健診センターの検査精度アップ 2. 従業員の健康度アップ 3. 事業所のやる気度アップ」を希望しています。」であった。

図表 16 地域産業保健センターの事業に産業医として参加し活動する意思を高めるために改善を望む事項について（複数回答可）



新組織での運営と事業についての意見・要望として、自由記載欄には以下の記載があ

った。

- 1. 健診センターの検査精度アップ 2. 従業員の健康度アップ 3. 事業所のやる気度アップ を希望しています。
- 変にノルマなどを与えず、地域に根ざし、地域に産業保健活動を広げる最前線基地として活用していくべきである。機構になるとノルマノルマとうるさい。
- 働く人達を守る有意義な仕事と考え活動しています。地産保を利用する人が多くなるよう、制度のPR もお願いします。
- 中小企業の小規模事業場を主たる対象とすべきで、三次産業の大企業（小売業等）の店舗や営業所は、その企業の自主的とりくみを優先すべきです。労働衛生コンサルタントとのコラボをすすめるべきと考えます。
- 地域産業保健センター様、現場を知らない、行ったことのない医師会・県医師会が全く関心がない放置状況。ここの教育をしろ！
- 対象となる労働者がかなりの数になるが、利用されているのがほんのわずかである。認知等もっと積極的にされるべきである。現在、非正規雇用が1/3以上あるのに対して、ほとんど安全衛生面、健康面に対して配慮されていない。大企業と小企業との健康面での格差が著しく広がっているのを強く感じている。
- 事業内容について、労働者及び先生方へより周知できる方法を考えなければならない。事業について、相談者の人数のみの比較でなく、有意義な活動をしている機構の方法を共有できる様にしてもらいたい。
- 事業主や、従業員による相談件数を増やす方法を充実させてほしい。
- 産業保健センターの仕事量は多くないので、産業医としては協力します。
- 産業医の知識が望まれます。
- 雇って下さり誠に有り難うございます。
- 現在当医師会で産業医資格をもつ医師はすでに3-4の事業所をもっており、今後産業医の依頼をうけても医師会から派遣することは困難です。日医認定産業医でなくても産業医として働けるようにはならないでしょうか…。
- 現在の面接で行う指導をやめて、他の産業医活動（作業環境調査、メンタルヘルスの相談など）の仕事を検討して下さい。
- 各々の仲間意識を確保し、継続していきたい。良き師を（共有の）持つことに全力をあげたい。
- 可能な限り協力をさせていただきたいと考えております。

- まだまだ小さな事業場に対する宣伝が足りないと思います。もっと利用して頂けるように努力すべきです。
- コーディネーターの方の報酬引き上げを希望します。
- コーディネーターがもっと活動できる様に、人、予算をつけていただければと思います。
- いつもお世話になっております。（産業保健をいつもありがとうございます。労働衛生のしおりとともに愛読しています）開業して10年余になりました。同時に始めた地域産業医も少しずつわかり、対応もできるようになりました。（50歳台末に頑張って取得した労働衛生コンサルタントの知識が今、十分に解ってきました。「目指す会」では大変お世話になりました。）地域医療に於いて、高齢者、小児などの分野だけでなく働く方々の労働環境にも予防医学をお手伝いできればと思っています。これからもご指導よろしくお願い致します。
- 1. 地域センター担当産業医の研修、2. 労働基準監督署の呼びかけで各事業所の代表・担当者を集めて、定期的に講習会を開催、3. 以前（今でも？）50人以上の県の事業所の産業医を集めて、ワークステーションで開催していたような各年度毎の報告会を各地で開催

## 考 察

今回の調査研究の対象者は千葉県下9カ所の地域産業保健センター（以下地産保）での登録産業医である。9地産保のうち1地産保は正式な事業が実施されていないため、この調査研究の対象からは除外した。登録産業医は千葉産業保健総合支援センター所長からの辞令を交付した医師である。

質問紙に対する回答率は66%であった。これまでに千葉産業保健推進センターで実施した一般集団を対象にした調査では回答率は20-30%、船橋医師会の産業保健部会員のような特定集団を対象にした調査の回答率は50%であり、今回の調査の回答率は、従来の調査に比較すると高いと言える。この回答率が得られたので、今回の結果を解析することは有意義と考えられる。

回答者の特性を見ると、産業保健活動を活発に行っていることが明らかである。現在産業医として活動している回答者は89%、活動している事業所が1事業所から3事業所である回答者は21-22%、8事業所以上の回答者は10%であった。産業医としての月当たり活動時間は5時間以上の回答者は32%、1-2時間は21%、2-3時間、3-4時間は10-11%であり、活動時間も長い。このように今回、回答をした登録産業医は、千葉県下においては産業保健活動に活発に取り組んでいる集団であることが特徴であることを強調したい。

このように活発な産業医活動を行っている回答者は、従来の地域産業保健センターの事業にも参加しており、従来の地域産業保健センター業務の経験者は85%であった。参加した理由は、「医師会からの要請があったから」が77%、「医師会の受託した事業であったから」が20%であり、医師会が関係した事業であることが最大の理由であった。その他「事業は有意義であったから」が29%、「興味があったから」が23%と産業保健活動に対する意義の理解と興味をある程度有している事も大きな要因であった。

先の地域産業保健センターの活動に実際に参加した回答者では「地域産業保健センターの産業医業務は有意義と思う」42%、「ある程度有意義と思う」47%と地域産業

保健センターの活動を「有意義」と思った率は89%であった。また地域産業保健センターの産業医の業務に「興味がある」26%、「ある程度興味がある」50%と、地域産業保健センターの産業医活動に興味をもった回答者は76%であった。このような結果は、医師が地域産業保健センターの活動に参加することにより、産業保健活動への評価を高め、自分の興味をも高める事を示しており、今後とも医師が産業保健活動へ参加するような働きかけが極めて重要であることを明確に示している。ちなみに地域産業保健センター事業に参加しなかった理由では「参加の要請がなかった」が71%であった。

今年度から地域産業保健センター事業が労働者健康福祉機構（以下機構）に統合されて事業が一元化されたことを知っている回答者は64%、知っている程度では「よく知っている」14%、「まあまあ知っている」30%であり、機構に統合されたことを60%は知っているが、その知っている程度は低いという結果であった。統合の理由についても「よく知っている」7%、まあまあ知っている」20%であり、統合の理由は2/3の登録医は知らないという結果であった。従って、統合についての賛否については、実に76%が「わからない」という結果であった。

上述のように新組織に対する情報が不十分ななかでも、新組織の地産保事業へ参加する意思を示した医師は61%と高率であった。その理由では、「従来から参加していた」が74%と最も高く、次いで「医師として地域で果すべき役割のため」54%、「興味がある」32%、「有意義な事業」31%であり、回答者の新組織における地産保事業に対しても参加への積極的な態度が示された。参加の意思がない理由では、「時間的余裕がない」が82%であり、「報酬が低額のため」18%、「有意義な事業ではない」9%、「医師会の事業ではない」9%であり地産保事業に対する否定的な意見は少数（1人）であった。

新組織における地産保事業で産業医として参加し活動する意思を高める改善策としては「新しい組織と医師会の関係についての説明」45%、「今後の活動についての展望の説明」45%、「機構の下での新しい組織についての十分な説明」42%であり、この3つの改善策が最も多かった。次いで「報酬の増額」19%、「産業医活動に対する相談等の支援充実」17%、「業務実施方法の改善」16%、「産業医活動中の傷害保険の適用等の身分保障」15%、「面談場所等の環境の改善」11%であった。

上述の調査結果を簡明にまとめると、回答者は、現在積極的に産業医活動をしており、従来の地域産業保健事業にも積極的に参加していた集団である。新組織下の地産保事業についての情報が乏しい中でも、地産保事業に参加の意思を示している。求める改善策としては新事業に関する十分な説明である。

千葉産業保健総合支援センター（以下支援センター）の発足からの状況を考えると、今回の調査結果は妥当であり、納得できるものである。支援センターが4月より発足するのを受けて2-3月には千葉労働局で地産保業務を担当していた課長と千葉産業保健連絡事務所代表が9地区の地域産業保健センター長を訪問し新組織とその組織に統合される地産保事業の説明を行い医師会としての協力を要請している。この時点では新組織の体制、千葉県における実際的な体制と人事は不明であり、業務手順もはっきりしないために、的確な説明が出来たとは言い難い。特に、医師会が新しい業務にどのような関わりを持つのか、何故医師会が機構の事業に協力するかについては説得力のある説明はできなかったと思われる。このために、千葉県下の9地域のうち1地域では医師会の協力が得られずに、現時点でも正式な運営が出来ていない実状がある。その後の新組織の発足後も支援センター内の事務体制の混乱のために、当然なされるべき仕事の実施に困難な状況が続き、その対応に追われることとなっている。従って、登録産業医への情報提供は的確にはなされず、このために地産保事業での産業医業務の遂行に影響していることは今回の調査結果によっても明らかである。地産保事業の円滑な運営のためには、なによりも事業を中心的に担う地区医師会、登録産業医への丁寧な説明が重要であることを今回の調査結果は明らかにしている。幸いにも千葉県医師会の産業保健担当理事、副担当理事は支援センター業務の重要性を理解し、積極的に千葉県医師会理事会での説明と事業実施への同意の取り付け、地区医師会長への説明と事業実施の要請に積極的に取り組まれている。支援センターとしても地区医師会、登録産業医に対する説明を最重点の努力目標として位置付け、今後ともに活動していきたい。

新組織となって懸念されている事項には「機構の事業に、なぜ地区医師会が協力しなければならないのか？ なぜ地区医師会員が相談業務を引き受けるのか？」という疑問に対してどのように対応するのかということがある。従来は県医師会の委託事業であるので、医師会員が協力することには大きな疑問は出てきていなかった。今回は機構が医

師会、医師会員を使おうとしているような印象を持つ会員も少なくない。千葉県における医療資源は全国と比較して極めて厳しい状況にある。人口当たりの医師数は全国45位であり、どの地区でも医師不足である。そのために医師会員は救急事業への参加等の多くの業務を抱えており、新組織の地産保事業への参加を要請されても困難であるとの意見を多くの地区から聞いている。そのような状況の中でも今回の調査結果は、登録産業医として新組織の事業に参加している医師は、地産保事業の意義を認め、興味を持って地産保事業に参加していることを明らかにしている。この結果は、活動を展開しようとする者にとっては大いに勇気づけられるものである。丁寧に、繰返し地産保事業の意義と重要性及び今後の方向性を説明することにより登録産業医はもちろん地区医師会員にも地産保事業について理解を得たいと考えている。実際、千葉県医師会産業医研修会、地区医師会産業医研修会等で新組織と地産保事業についての説明を実施しており、今後もこの努力を継続していきたい。

千葉県医師会で指摘されたのは、登録産業医が相談を行った際の訴訟発生の懸念である。この問題の解決が長引いて、医師会に機構への不信感が持たれるような状況が生まれてきた。このような事態に対する機構の迅速な対応は地産保事業を進めるためには不可欠である。自由意見欄に「機構になるとノルマノルマとうるさい」と記載されているように機構に対する医師の信頼は充分とはいえない。

本調査研究は新組織における地産保事業を成功させるために重要な活動の方向性を明らかにしており、この結果を基に千葉産業保健総合支援センターは今後の活動を進めることを予定している。

## 「3事業統合後の新組織運営と活性化のための方策」のアンケート

### 記入上のご注意

- 1 設問に対する回答は、選択肢の各番号を○印で囲んでください。
- 2 アンケートの内容は、当センターの今後の活動のために統計処理しますので、個別の回答内容が外部へ漏れることはありません。（アンケート用紙による調査は無記名で実施されますので個人は特定されず、個人情報の保護が図られております。）
- 3 アンケートの内容等についてご不明な点がございましたら、下記までお問合せ下さい。

(問合せ等の連絡先)

(独) 労働者健康福祉機構

千葉産業保健総合支援センター

担当；塩田

〒260-0013 千葉市中央区中央3-3-8

日進センタービル8階

電話 043-202-3639

FAX043-202-3638





8. 4の③地域産業保健センターで業務をしたことがない先生に対する質問です。  
業務に参加しなかったのはどのような理由からですか。  
(択一)  
① 地域産業保健センターから参加の要請がなかった ② 要請があったが忙しかった  
③ 要請があったが興味を持てなかった ④ 特別の理由はない
9. 平成26年4月1日より従来の地域産業保健センターは千葉県医師会への委託事業から独立行政法人 労働者健康福祉機構（以下「機構」と言います）に統合（事業一元化）されました。このことを知っていますか。  
(択一)  
① 知っている ② 知らない
10. 9の①知っている 先生に対する質問です  
統合された新組織について、どの程度知っていますか。  
(択一)  
① よく知っている ② まあまあ知っている ③ あまり知らない  
④ ほとんど知らない
11. 地域産業保健センターが統合された理由について知っていますか。  
(択一)  
① よく知っている ② まあまあ知っている ③ あまり知らない  
④ ほとんど知らない ⑤ 全く知らない
12. 地域産業保健センターが統合され、機構に所属したこと（実施主体となったこと）に対して賛成ですか、反対ですか。  
(択一)  
① 賛成 ② 反対 ③ わからない
13. 新しい組織で実施される従来の地域産業保健センターの事業に産業医として参加される意思はありますか。  
(択一)  
① 参加の意思あり ② 参加の意思はない ③ わからない
14. 13の①参加の意思あり と答えた先生に対する質問です。  
参加される意思がある理由をお答え下さい。  
(複数回答)  
① 有意義な事業であるため ② 医師として地域で果すべき役割のため  
③ 従来から参加していたため ④ 時間的に余裕があるため  
⑤ 産業保健活動に興味があるため  
⑥ その他 ( )

15. 13の②参加の意思はない と答えた先生に対する質問です。

参加の意思がない理由をお答え下さい。

(複数回答)

- ① 有意義な事業ではないため
- ② 医師会ではなく機構の事業のため
- ③ 産業保健に興味がないため
- ④ 時間的余裕がないため
- ⑤ 報酬が低額のため
- ⑥ 面談等の人数が多いため
- ⑦ 過重労働面、メンタル不調事案等仕事の内容が複雑、高度のため
- ⑧ その他 ( )

16. 新しい組織で実施される従来の地域産業保健センターの事業に産業医として参加し活動する意思を高めるために改善を望む事をお答え下さい。

(複数回答)

- ① 労働者健康福祉機構の下での新しい組織についての十分な説明
- ② 新しい組織と医師会の関係についての説明
- ③ 今後の活動についての展望の説明
- ④ 業務の実施方法の改善
- ⑤ 面談場所等の環境の改善
- ⑥ 報酬の増額
- ⑦ 産業医活動中の傷害保険の適用等の身分保障
- ⑧ 産業医活動に対する相談等の支援充実
- ⑨ その他 ( )

質問は以上で終わりです。ご協力有難うございました。

その他

新組織での運営と事業について先生の御要望、御意見をお書き下さい。

要望・意見